

「市長と語ろう！～みらいの立川を創る～」 高校生世代ミーティング【概要】

平成30年11月4日（日）

12時00分～15時30分

子ども未来センター 多目的室

1 開会の挨拶

（市長）

こんにちは。市長の清水でございます。

今、立川はおかげさまで1日44万人程度の市外からの来訪者がいるので、これは多摩地区では圧倒的に上位で、私どもはその間、ずっと立川のまちづくりのためのインフラ整備、ハードな部分で道路をつくったり、橋をつくったり、象徴的なのは立川駅の周辺の南口、北口のデッキですね、多摩地区の中ではあのような大規模なデッキをつけられたまちというのはいないんです。

デッキは人が大勢来るから、2階建てにしたと大抵の方は思っているんですよ。その意味もあります。だけれども、北口のデッキは太い鋼鉄のアーチが通っていますでしょ。あのアーチの下はバスターミナルになっています。

それで、2階建てのデッキにすると、柱を建てなきゃならない。柱を建てると車の収容力がより小さくなってしまうということで、4本のあのアーチでデッキを支えちゃえば、柱は4本で済む。バスターミナルとして利用するのに、あのアーチで柱をなくすことによって収容力が非常に増えるということなんです。

それがいつの間にかアニメの世界にぴったりのまちのしつらえだという評価をいただいて、あのアーチが今、一躍主役になっているんですけれども、あれはまさにひょうたんから駒です。

そしてモノレールが通っております通路のすぐ西側のところで今工事をやっています。あの工事は、2020年3月から4月に3つの主な建物が全部立ち上がるんです。

駅のほうからいうと、多摩信用金庫の本店ができます。多摩信用金庫で収集してある美術品が大体1万3,000点あるということなんです。ほとんどのお宝が蔵の中で眠っているということですから、そんな思いから本店と同時に美術館をつくるということになっています。

美術館の次が、ホテルです。80室ぐらいのホテルなんだそうですけれども、1部屋の広さが最低で50㎡、いわゆる高級ホテルをつくる段取りで、今、基礎工事をやっています。

それから、一番駅から離れた一番北側のところには約2,500席の音楽ホールのようなものをつくります。

これがあと2年ででき上がります。ハードを中心としたまちづくりは、ほぼそれでおしまいと。

それでは、今のにぎわいを継続して立川の繁栄を保っていくためにはどうしたらいいか。その次はソフトのまちづくりですね。文化とか芸術とかをアピールして、大勢の方に立川に来ていただかなければならないということでシフトをしました。3年前から「にぎわいとやすらぎの交流都市立川」という題目を標榜しまして、今後の立川のまちづくりの継続をそれで図っていこうということに決めました。

従来は長期計画というと、大体15年スパンで作っていたんです。ところが、15年では、これだけ時代の進展が速い中ではとても長過ぎるので、もっと短くしよう。ただ、短くするにしても、方向性が定まらなくなっちゃう可能性が大いにあるわけで、10年計画にいたしました。しかし、10年でも時代の変遷は非常に速いですから、5年で見直しをかけようということで、第4次長期総合計画の前半5期が来年いっぱい終わります。再来年からは第4次長期総合計画の後半5年の部分に入る。その部分の見直しの作業が今始まっております。

それをつくるために、市民の皆さんや様々な年代の皆さんから多くの意見、ご提言を聞いて、後半の5年間の長期総合計画の肉づけにしていこうじゃないかということで、今、皆さん方にいろんな形で作業していただいたり、これからまたご意見をいただくという方向になっているわけでございます。

5年たてば皆さんは18歳以上。有権者として、あるいは地域の一市民として、十二分にさまざまなアイデアや行動でまちをつくっていく主役になり得る立場になるわけでありますから、ぜひそれらも参考といいましょうか、糧としてやっていただければありがたいなと。どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

駅の周りの治安が少し悪いなと思いました。学校から立川駅北口に向かう途中の、居酒屋とかドラッグストアが多くある場所は、7時過ぎとか遅い時間になると客引きの人とかが多くなるように思うので、少なくしてほしいなと思いました。

また、駅や電車の中がほとんどなんですけど、盗撮とか痴漢をする人が立川駅は少し多いなと思ったので、その辺も少し取り締まりをきつくしてほしいなと思います。

(参加者)

立川市内の駅付近を見ると、建築物が多く設置されて充実していますが、その反面で見晴らしが悪かったり、道が窮屈だと感じることがあります。通学路とか、大勢通る交差点等は狭いと人と自転車がぶつかる危険性が高く、もう少し道を広くすることはできないでしょうか。

(参加者)

私は、治安が悪いのは駅の近くだけだと考えています。駅付近に飲み屋やゲームセンターなど、そういうのがたくさんあるから、治安が悪くなってしまうのかなと思うんですけど、そういうのあるからこそ立川に人が集まる要因でもあるかなと思います。なくすのは難しいかと思うので駅近くのパトロール強化というのをお勧めしたいなと思います。

(参加者)

魅力として店が多い、買い物に困らない、物が多くて便利だという意見だったのに対して、課題として挙げたのも施設が多くて道幅が狭い、そして治安が悪い。同じように人、物が多いことによる課題かなと思いました。

自分が使うバス停は、北口の大通りにあるんですけど、そこにある居酒屋のキャッチ、客引きが大声で騒いでいるのを見て不快になることがよくあります。立川市で出した条例で客引き等キャッチは禁止されていたと思うので、取り締まりが強化されて治安がよくなればいいなと思いました。

（市長）

まず駅前の治安の悪さ、客引きや、遅くなると雰囲気が悪い。よく承知しています。私自身も毎年、年末のパトロール、治安がよくなるようにということでやっているんですが、注意して歩くのは第1弾であるんです。

世論から決定的な猛反発を食いましたけれども、立川駅を中心として250メートルの地域を禁煙にしました。禁煙にすると、人が集まりにくくなりますよね。禁煙措置をすることでかなりの部分が、集まらないようにはなっています。

ただ、にぎわっているまちの宿命として、大勢の方が集まってきて、そして客引きをしたりだべったりというのは立川警察も大変心配してくれていますので、安全なまちをつくるための地道な取り組み、例えば警察署長、あるいは市長の私がパトロールに歩いたり、色んな方法を使って治安をよくしたいという運動活動をしています。

これが最後の手段だというのはありません。私どもと同じような悩みを抱えている新宿もそうです。新宿の前区長に何をやっていいか尋ねたら、地道な取り組み以外にないと。まちのにぎわいと治安の悪さはある意味共通をしているということで、じっくりと時間をかけて取り組んでいってくださいというアドバイスをいただきまして、今そうやって取り組んでいるところです。

それから、道が狭いとおっしゃる話、まさにそのとおりです。立川のまちは計画的にできたまちではありません。立川駅だけは、明治の初め、畑のど真ん中にできたんです。

ですから、駅が出来て、段階的に次から次に広がっていき、途中で、南口は区画整理ができました。南口の区画整理はちょうど3年前にでき上がったんですけども、区画整理をやると土地の面積が減ります。その分を道路にするわけですから。大変な議論があった中で、実は50年間かけて南口はできた。

南口は、区画整理のために道路がたくさんできたので、ああいう町並みになったんですけど、北口は駅の周辺をモノレールができるために再開発をやりました。伊勢丹とか高島屋があるあたりは全部再開発なんですけど、それ以外のところはまだ手がついていません。

今度は中武デパートのすぐ東側のところに飲み屋街みたいなのができているでしょ。屋台村というところなんですけど、あそこは将来の再開発をするための種地として、今、臨時の飲食街ができておりますけれども、そんな形で駅前の東側部分に次の再開発の芽が始めています。そんなことで今少しずつ動いています。

それから、治安が悪いのは、店が多いため。まさにそのとおりなんです。店が多いんです。多摩地区の各市に比べて店が多い。

その証拠に、立川の市民1人当たりの法人税は他市に比べて高いです。立川のにぎわいの原動力というのはそこら辺にあるんです。

（参加者）

資料では、立川の目指す将来像としてにぎわいとやすらぎの2件を挙げていました。しかし、にぎわいという点においては商業施設が充実しており、達成されていると思ったんですけど、やすらぎという点において足りない部分があるのかなと思いました。駅前の治安や路地を猛スピードで走る車など、やすらぎを得られる環境には遠いのかなと思っています。

ます。

それに当たって、市や警察ができることには限りがあるのだと思います。そこで、僕が挙げるのは地域住民の力を使うということです。僕が住んでいる八王子では地域住民の仲がすごいよくて、そのコミュニティの中で簡単には犯罪を起こせない、ちょっとしたマナー違反であっても直さないといけないという意識が生まれているので、住民の親しさを上げるというのが犯罪の抑止になるのかなと考えています。そこで、町会への参加を促したり、声かけを促すということが効果的なのかなと思っています。

(参加者)

私の課題は受動喫煙をなくそうということです。もっと喫煙できる場所があればいいのではないかと思います。調べたところ、立川市は以前、条例で喫煙所を撤去していて、そのことは私も受動喫煙がなくなるのでいいことだと思っています。

さらに調べたところ、受動喫煙防止対策助成金というのがあり、これは中小企業などに受動喫煙防止のために設備や整備に対して助成金が出る制度ですが、これをもっと周知したほうがいいのではないかと私は思いました。

(参加者)

私は治安がよくないという問題について考えました。私が実際に通学する中でお店などの勧誘のチラシを配る人が多いところ、歩道で声を大きくして騒ぎ立てている居酒屋の店員らしき人物が結構いるということなどが気になりました。

本日、意見交換をした中でも、私が普段通らない南口にも気になる点があるという意見をいただき、やはり全体を通して、治安というものは立川市にとって大きな問題であると思いました。治安が悪いと感じる人がいる限り、立川市安全・安心パトロールなど現在行われているパトロールを強化するなどして、少しでもよくなるように追求していくべきだと思いました。

(市長)

やすらぎが本当にあるかというところですが、ファーレ立川って知っていますか。

高島屋の後ろ、裏、あそこがファーレ地区っていうんですけども、あそこに、109体の屋外アートがあるんです。

狭い地域に109体もあるというのは日本の立川のアート群が世界で1番だったんです。お金の話を言って大変恐縮ですけども、ちょっと知れ渡ったものになると20億円とか30億円の値打ちがあるものが何げなく飾ってあるんですよ。ですから、日本中あるいは外国からも大勢の方があれを目指して見に来るんです。まず、それがやすらぎのナンバーワンですね。

そのほかに、立川は玉川上水や多摩川が流れています。例えば玉川上水の場合には両方の岸に桜が植わっていたり、富士見町のあたりは泉が湧いていたり、田んぼがあったり、そんなことでやすらぎの空間をつくり出しながら市民の憩いの場にするんだということでも今やっているところです。ぜひ一度体験してみてください。

それから、喫煙所の撤去の件は、さっきも言いましたけど、いつときは大変だったんですけども、何とかご理解をいただいて、喫煙所があったときには、たき火をしているみたいにとばこの煙が上がっていたんです。

結果的には、歩きたばこをする人もたまには見かけますけれども、前よりはそれほどひどくはない。だけれども、ちょっと油断すれば、すぐまた元の状態になってしまうので、しっかりと市でもお金を出して、日中、町なかをパトロールしてもらえる会社に委託をしたり、ボランティアの市民がまちの中を歩いていたり、地道な努力を継続することが一番大切だなと思っていて、東京オリンピック・パラリンピックにはまち全体全て禁煙という方向が出ておりますから、そういう東京都の小池知事のやる方法に全面的に協力をしながら、立川でも地道に努力を続けると考えています。

それから、パトロールの強化、一緒の話になっちゃいましたけど、パトロールの強化はずっとそのまま継続してやっていきたいなと思っています。

(参加者)

駅よりも南側の日野橋交差点のあたりは、交通量が多いわりには道幅が狭いというか、北側の行政の施設とかが集まるところに比べたら狭くなってしまっていて、歩行者と自転車がつぶつかりそうになるということをよく見かけるので、歩道と自転車を分離するとか、歩車分離もしくは歩道拡張というのができたらいいなと思います。

(参加者)

立川市から出ていってしまう年齢層が20代、30代、40代が多いということで、その人たちを立川にとどめるために子育て支援とか、そういったサービスに力を入れたら立川市に残ってくれて、より活気のある市になっていくと思いました。

(参加者)

立川の一番いい点として、お店や施設が充実しているから何でも買えるので、自由な生活ができると思いました。けれど、自由といっても周りに迷惑をかけてはいけないと思いますので、ルールを大切にすべきだと思います。

例を挙げると、先ほどおっしゃっていた路上喫煙など禁止というのが一応ルールとしてはされているけれども、時々見かけることがあるので、そこを徹底すべきだと思います。

そのアイデアとして、新宿区の条例としてあったのが、喫煙スペースをつくって、それ以外は一切禁止するというので、それに対して、さっき喫煙スペースが今まであったから、たばこを吸っている人がいたと言うんですけど、それを今なくしたことによって路上喫煙が発生しちゃうというところがあったので、僕の意見としては、喫煙スペースをつくって、その中でも喫煙スペースの利用にあたってのルールを作るべきだと思います。

(市長)

日野橋を例に挙げて道幅が狭過ぎるというお話があったんですが、日野橋を通ると片側1車線ですよ。日野橋って古い橋で、それで東京都のほうにお願いしてかけかえる予定で、来年から多分、着工できると思うんです。橋が狭いものですから、橋に取りつけてある入り口、出口の道路を広くしてしまうと、交通渋滞は火を見るよりも明らかです。ですから、安全のために道路を拡幅しようと思っても、その先の橋が狭いものだから、動きがとれないでいたんです。だけれども、今度、片側2車線で広げる工事が始まります。そうすると、自転車や歩行者スペースがしっかりととれるということで、もう目の前に見えています。

それから、立川から流出する人口が、実は25歳から39歳の子育て真っ最中ぐらいの、あ

るいは結婚してこれから新しい世帯をつくろうかなという年代層が多いんですよ。

これについては市としてもアンケート調査をして、原因は大体つかんでいます。1番は、立川は家賃も高い、土地も高い。だから、新婚の人たちが世帯を立川に持とうと思っても、子育てにお金がかかるのを控えていながら、あえて高い土地や高い家賃のマンションなんかには立川は入りづらいということで、立川から出ていっちゃう理由の1番がそれなんです。ですから、子育てに力を入れるということで、立川の保育園の待機児は今年からほぼゼロになったんです。4年間で約300人定員を増やして、そうしたら大体保育園の待機児はゼロになりました。

そんなことで、地道に子育てのお手伝いになるような政策を打っていくことによって、25歳から39歳世代の方々の定着、定住ができるような方向にいくのではないかなと今期待をしています。

ただ、土地が高かったり家賃が高かったりするというのは、にぎわいのあるまちの宿命ではないかなという気もするんですけども、そんなことを言っているだけでは頼りないので、とにかく今後動いてみよう、行動してみようという方向で今スタートしています。

それから、路上喫煙の関係で喫煙スペースですけれども、歌舞伎町の例があったんですが、歌舞伎町の場合には周辺に居住者があんまりいないんです。立川の場合ですと、駅のすぐそばから居住用のマンションがある。さっきの話の中で喫煙所がたき火をしているみたいに煙がもうもうと上がって、そんな状況になっているので、これは近所に住んでいる人たちはたまらないなということで、やむを得ずやりました。

私は地道に協力を求めていくことによって、5年、10年たてばきっと定着できるのではないかなという信念を持ってやっていますので、ぜひそこら辺は理解をしていただければと思います。

(参加者)

私が考えたのは、視覚障害者のための信号を増やしてほしいということです。立川には264個の信号がありますが、その中で視覚障害者のための信号と音響装置付信号機は18個しかありません。同じ多摩地区である日野市は260個の信号の中で59個ありまして、また府中市は324個中36個など、比較的立川には音響装置付信号機が少ないと思いました。立川は交通の便がよく、それに伴い人も多くいます。また、駅周辺には視覚障害者のための病院もあるため、視覚障害者のための信号を増やしてほしいと考えました。

(参加者)

私が挙げたのはコミュニティバスの利便性の向上です。現在、立川市内を走るコミュニティバスは本数がとても少なく、また市内のみの運行となっているので、まずコミュニティバスの本数を増やすのと同時に、ほかの市との共同運行をすることでより使いやすいバスになるのではないかなと思いました。

武蔵野市ではムーバスというコミュニティバスを運行しているんですが、本数はどの路線でも20分に1本で、三鷹市との共同運行をしているので、利用客は多いです。

(参加者)

地下道を安全にしてほしいということで、立川には北口と南口をつなぐ地下道が2カ所あるんですけど、原則的には自転車は押し歩きということにはなっているのに、自転車に乗っていたり、あと一番怖いのはスクーターでそのまま駅に走ってくるということで、歩

行者にとっては危険にさらされているわけで、その原因として考えたのが、自転車やスクーターの二輪車が北口と南口の行き来がしにくいんじゃないかということで、地下道以外に北口と南口を二輪車で行き来できるような高架ですとか、何か案があったら、そういうのを言ってもらえたらいいなと考えました。

（市長）

まず、視覚障害者のための信号機ということなんですけども、信号機の設置とか計画は原則的に警察にありまして、市民の要望を市のほうで聞いて、それを警察のほうへ伝えて実現をしてもらうというシステムになっているんです。ですから、私がここであれをやりますとかやりませんということはなかなか言いづらいのであれなんですけども、それだけご承知おきをいただきたいと思います。

警察のほうへこういう切実な要望があるんですよということをお伝えしていきます。せっかくご提案いただいたのに即答できないでごめんなさい。

それから、コミュニティバスの件です。武蔵野市の場合と立川市の場合はコミュニティバスのあり方が全く違うんです。武蔵野市は住宅街の中を走っているんです。住宅街の住宅の敷地の角を切り取って、バスが通れるように作ったりと、考え方の基本が全く違うんです。

立川市の場合は、幹線道路を走らせてほしいということなんですけども、バスの乗降客の多い少ないというのは、少しルートが変わっただけで全く乗らないんです。今回もあるルートを強力に、通してほしいという陳情がありまして、昨年、見直しのときに、そのルートを通すことにしたんです。そうしたら、ほとんど乗らないんです。いずれにしてもできるだけ大勢の方に利用してもらえるようなバスルートをつくり上げていくということで、またバスルートの変更を立川では考えています。

そして、大勢の方に乗ってもらえるようにということなんですけども、何せバスルートを運行するのに、税金を使っています。ですから、しっかりとした議論をして、無駄な税金の使い方をしないような形で今見直しています。ですから、来年には見直しの方方向にいくと思うんですけど、そういうことで承知しておいてください。

それから、地下道以外にスクーターや自転車を通すということになると、膨大な費用が必要になります。そのほかには、もしかしたらJRは許可をしてくれないかもしれない。すごく難しい課題があります。できるだけ安全に通行できるように今、西のほうも東のほうも地下道の壁面の塗りかえをやっていますね。少しでもあそこを通行する人の気持ちが和むようなしつらえを今やっているところなんですけども、既存の地下道を二輪車が通りづらいような障害物等を置いて規制ができるかどうか、ちょっと考えてみますけれども、そんなところでよろしく願います。

（参加者）

立川女子高等学校の前の道路にスクールゾーンの路面塗装をお願いしたいと思います

学校に面する前の道路はトラックが通るのにもぎりぎり、車がすれ違えることができないと言ってもいいくらいの狭さです。現在、既にスクールゾーン指定はされていますが、標識しかないため車に認識してもらえません。その標識も非常に見にくいところに設置さ

れています。気づかない車が多い原因の一つです。とても危険です。

この道は立川市立第五小学校の児童の通学路にもなっています。また、幼稚園も隣にあり、そちらの園児と保護者も本校の前を通っています。路面塗装をしていただければ、危険は減ると思います。

（市長）

わかりました。現場を確認してから、きちんとした対応をさせていただきます。道路の扱いは、警察と相談しなければならない問題がたくさんあるんです。ですから、私の決裁でできるものだったら、今でもオーケーと言っちゃうんですけども、とりあえず交通管理者は警察なものですから、警察と協議の上でないとなかなかきちんとした返事ができないものですから、そういうことで少し時間をください。

（参加者）

待機児童はいたような気がするんですけど、さっきほぼゼロということで、そのほぼゼロのほぼは何なのか少し疑問に思ったので、お教えいただければと思います。

（市長）

待機児童は約40人なんです。子育てをしている親御さんたちが育児休暇をとっています。あれは1年ごとに更新するそうです。そうすると、1年たって、またA保育園へ入りたいという入園申請を出します。

それで、A保育園が、あなたより困っている人がいますので、入れませんよという入園がだめな通知を親御さんに出します。もらった親御さんはそれを会社へ持って行って、保育園で断られたから、もう1年会社を休んで子育てをさせてくださいよということに使うんだそうです、入園拒否の通知を。

さっき説明しようかどうしようかなと迷っていたんですけども、そういうことです。

3 閉会の挨拶

（市長）

どうも皆さん、今日はありがとうございました。とっても楽しかったです。

私は、自分自身も皆さんのような年代のときがありました。やんちゃ坊主でした。大人と違うことをいつも考えていまして、何で大人はそんな人のことを縛ってばかりいるんだみたいな、そんなことばかりいつも考えていたんです。そういうことを考えられる年代が、ちょうど皆さんと同じぐらいの年代、様々な発想をする中で様々な想像をしていくとか、とっても楽しいですよ、そういうの。そんなことをいつも思い出しながら、高校生の皆さんとのこのタウンミーティングは毎年楽しみにしております。

ぜひこういう伝統といいましょうか、こういう催しを後世の人たちにしっかりとバトンタッチしていただいて、そしてまちづくりを、自分のまちじゃなくたっていいわけですよ。隣のまちだって、学校があるまちだっていいし、あるいはもしかしたら通りがかりのまちでもいいわけですよ。いろんなことを感じたものを表現して、そしてそこがよくなれば、もうそれはそれでいいわけですから、そんな思いをつくづく感じました。

今年の中学生の作文コンクールでは、そういうことをテーマにした中学2年生の女子が市長賞をとりました。「私に今できること」という題で、私は中学2年生ですから、お金も力ありません、どうしたらいいんでしょう、さんざん考えました。新聞を読んだら、東

南アジアの貧しい国の子たちは学校へ行くことはおろか、教科書やかばんを買えない、そんな貧しい人たちが大勢いるんですよという記事を読んだそうです。

そこではっと気がついた。私と妹が使っていたランドセルを、古くなったけれども送ってあげようか。そうしたら、そういうのを受け付けているNPO法人がいたそうでした、きれいにそのランドセルを磨き直してNPO法人に送って、そして貧しい国の子供たちにそのランドセルを届けていただいた。たくさん集まった中の一つが私のランドセルです。

こんな概要だったんですけども、何かこんな私にも人のお役に立つことができた。そういう感想の意見発表でした。

私は今日この席に来ていて、その女子中学生の作文を思い出しながら、皆さんのいろいろなお話を聞かせてもらいました。とても楽しかったです。ぜひこれからもそのような思いをどこかで、立川の清水というのが何かしゃべっていたぐらいの少しでいいですから、どこかにしまっておいていただいて、社会の役に立てるような、そんな仕事ができるような人生を送っていただければうれしいなと思っています。

今日はいろいろありがとうございました。